

Overview: 資格づけられて良き地を受け継ぐ者たちは、神の心と神の統治を知り、神を愛し、神に信頼し、神を畏れ、神の臨在の中に生きます(I)。神の要求を満たすために、私たちは自分自身に全く信頼すべきではありません。私たちは神の願いを私たちの願いとすること、また彼を私たちの命また命の供給とすることを学ぶべきです(II)。モーセはイスラエルの民に、神を愛し、神を畏れるように命じました。神を愛するとは、全存在、霊、魂、体を、心、魂、思い、力と共に完全に神の上に置くということです。それによって彼が私たちのすべてとなり、日常生活の中で実際的に彼と一になります。私たちはみな神を畏れるべきです。私たちは神を畏れるとき、神の道を歩みます。私たちは神の道を、神が何であるか、どのようにして神が行動し振る舞うかを学ぶ必要があります(III~V)。私たちは敵と戦います。戦う自分の責任を果たすことができるのは、ただ主にある信仰によって、私たちの命また命の供給としての主ご自身によってです(VI)。神が要求するすべての事柄を行なうために、神の民のために神と共に働く命を必要とします(VII)。

I. 申命記は、どのような人が資格づけられて良き地としての約束された地を受け継ぐかについて語っています:

申1:21 見よ、エホバ・あなたの神は、その地をあなたの前に置かれた。エホバ・あなたの父祖の神が、あなたに語られたように上って行き、それを所有しなさい。恐れてはならない。おののいてはならない。

A. 神の民は、神が何であるかに符合する必要があります:**1.** 受け継ぐ者たちは、嗣業を与える方に符合する必要があります。それによって嗣業を与える方は、彼らの生活においても戦いにおいても、彼らと共にいることができます。**2.** 私たちは嗣業を与える方に符合するために、彼が聖であるように、私たちも聖である必要があります。**1ペテロ1:16** というのは、「私が聖であるから、あなたがたも聖となるべきである」と書かれているからです。

B. 資格づけられて良き地を受け継ぐ者たちは、神の心と神の統治を知り、神を愛し、神に信頼し、神を畏れ、神の支配に服従し、神の柔和な感覚を思い、神の臨在の中に生きます。**ルカ6:36** あなたがたの父があわれみに満ちておられるように、あわれみに満ちていなさい。

C. キリストは、私たちに供給し、私たちを維持し、私たちを、神を愛し、神に信頼し、神を畏れ、神の支配に服従し、神の柔和な感覚を思い、神の臨在の中に生きる者とならせる方です。 **同**

II. 神は彼のエコノミーにおいて、神が私たちに要求するすべての事を、私たちが行なうべきであることを計画しました: **マタイ7:21** 私に向かって「主よ、主よ」と言う者がみな、天の王国に入るのではなく、天におられる私の父のみこころを行なう者だけが入るのである。(水曜)

A. 私たちは自分自身では神のために何も行なうことはできません。私たちは別の命(神聖な命、すなわち神の命)を必要とします。**マタイ19:26** イエスは…言われた、「それは人にはできないが、神にはすべての事ができる」。**1ヨハネ5:13** 私がこれらの事をあなたがたに、すなわち、神の御子の名の中へと信じているあなたがたに書き送ったのは、あなたがたが永遠の命を持っていることを知るためです。

B. 神が願っているのは、私たちがこのすべてを、自分自身によって行なうのではなく、キリストの中で、キリストによって、キリストをもって、キリストを通して、キリストと一であることによって行なうということです。

C. これが意味するのは、私たちがキリストとの霊的な結合、有機的な結合を持つ必要があるということです:

ヨハネ15:5 私はぶどうの木であり、あなたがたはその枝である。人が私の中に住んでおり、私もその人の中に住んでいるなら、その人は多くの実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もすることができないからである。

1. 私たちがキリストとのそのような結合の中へと入るために、神は私たちがキリストを信じるだけでなく、キリストの中へと信じることを願っています。**ヨハネ3:15** それは、彼の中へと信じる者がすべて、永遠の命を持つためである。

(水曜) **2.** キリストの中へと信じることは、キリストと有機的な結合を持ち、キリストと一つ霊となることです。**3.** この結合の中で、私たちはキリストに結合され、キリストと一であり、キリストの中にいます。**4.** 私たちは、今やキリストと一でありキリストの中にいる者たちとして、キリストによって、またキリストを通して、神が要求するすべてのことを行なう必要があります。**ピリピ4:13** 私は、私を力づけてくださる方の中で、いっさいの事柄を行なうことができるのです。

(水曜) **5.** 私たちはもはや自分自身によって生きたり、自分自身によって事を行なったりすべきではなく、キリストによって生き、キリストによってあらゆる事を行なうべきです。

D. 私たちが認識する必要のある極めて重要な事柄は、私たちがキリストの中で、キリストによって、キリストをもって、キリストを通して、キリストとの一の中で生活し、行動し、振る舞い、働き、存在することを、神が願っているということです。

E. 神の要求を満たすために、私たちは自分自身に全く信頼すべきではありません。そうではなく、私たちは神の願いを私たちの願いとすること、また彼を私たちの命また命の供給とすることを学ぶべきです。 **火水**

III. モーセはイスラエルの民に、神を愛するように命じました: **申6:5** あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、エホバ・あなたの神を愛さなければならない。

10:12 今、イスラエルよ、エホバ・あなたの神があなたに求めておられるのは、ただあなたが、エホバ・あなたの神を畏れ、彼のすべての道に歩み、彼を愛し、心を尽くし、魂を尽くしてエホバ・あなたの神に仕え、

A. 「愛」という言葉は愛情を暗示します。それはとても柔和なものです:**1.** 神ご自身が彼の民に愛情を注ぐことによって、愛することの模範を立てました。**2.** 私たちは神に愛情を注ぐことによって、神を愛すべきです。

B. **I** ヨハネ2:5における「神の愛」は、神に対する私たちの愛を指しており、それは私たちの内側にある神の愛によって生み出されます。神はまず私たちを愛してくださいました。そして彼の愛を私たちに注入し、私たちの内側に愛を生み出し、その愛をもって私たちが神を愛し、兄弟たちを愛するようにしました。**1ヨハネ2:5** しかし、だれでも彼の言を守っているなら、その人の内で、真に神の愛が全うされているのです。それによって、私たちは、彼の中にいることを知ります。

C. モーセは申命記10:12で、心を尽くし、魂を尽くして神を愛することについて語りました。また彼は6:5で、心を尽くし、魂を尽くし、力(体力)を尽くして神を愛するように命じました。私たちは全存在を尽くして、すなわち私たちの心から、魂、思いを通して、体に至るまで、主である私たちの神を愛します。

D. 神を愛することが意味するのは、私たちの全存在、すなわち霊、魂、体を、心、魂、思い、力と共に、完全に神の上に置くということです。これは、私たちの全存在を彼に占有していただき、私たちが彼の中で失われるとい

うことです。それによって彼が私たちのすべてとなり、私たちは日常生活の中で、実際的に彼と一になります。

IV.モーセはイスラエルの民に、神を畏れるように命じました: **A.**私たちはみな神を畏れるべきです。私たちは神に対する適切な畏れを持たなければなりません:

1.これは聖なる畏れ、すなわち健康で、厳粛な警告であって、私たちが聖なる振る舞いをするように導きます。

2.私たちは神を畏れ、神へと分離され、聖別されて、聖なる民となるべきです。**3.**神を畏れるとは、神の権威に服従することです。**4.**神は反逆的な者に対して厳格であるので、私たちは神を畏れる必要があります。 **✠**

B.神を畏れることに欠けるのは恐ろしいことです。それはあらゆる種類の不法の源です。

C.「生ける神の御手に陥るのは、恐ろしいことです」。また「私たちの神は、焼き尽くす火でもある」:**ヘブル10:31** 生ける神の御手に陥るのは、恐ろしいことです。**12:29** なぜなら、私たちの神は、焼き尽くす火でもあるからです。

1.私たちが仕えている生ける神は、侮られるような方ではありません。**ガラテヤ6:7** 欺かれてはなりません。神は侮られるような方ではありません。なぜなら、人がまくものは何であれ、それをまた刈り取るからです。

2.召会の歴史が証明しているのは、神を畏れないクリスチャンには良い結末はないということです。そのようなクリスチャンには悲惨な結末があります。

3.もし信者が神を畏れるなら、遅かれ早かれ彼は神によって明らかにされるでしょう。ヨセフの事例もそのようでした。彼は神を畏れる人であり、王座に着けられました。

V.イスラエルの子たちは、神の戒めを守るべきであっただけでなく、神の道を歩むべきでした: **A.**私たちは神を畏れるとき、神の道を歩みます:**1.**神の道は、実は神が何であるかです。**2.**神であるすべては、私たちにあって道です。例えば、神は愛です。また愛は私たちが歩く道です。

3.ですから、神の道を歩むことは、神を生き、神を表現し、神を現し、神を大きく表現することです。**4.**私たちは神の道を、すなわち神が何であるか、またどのようにして神が行動し振る舞うかを学ぶ必要があります。 **✠**

B.私たちの道である神は、キリストです。キリストを私たちの道とすることは、彼が何であるかにおいて彼を生きることであり、彼を生きるとは彼を表現し、彼を現し、さらには彼を大きく表現することです。

C.新エルサレムにおいて、命の水の川が神と小羊の御座から流れ出て、大通りの中央を流れていることは、神が私たちの命であり、また私たちの道であることを示しています。

D.私たちが神を私たちの命とするなら、彼の命と彼の性質は、私たちが歩く道となります。

VI.イスラエルの子たちは出て行って敵と戦いました。今日私たちが戦いの中にいます:

A.この戦いにおいて、私たちはキリストのために戦っており、またキリストの中にとどまるために戦っています。

B.私たちはキリストを所有し、私たちの地としてのキリストの中に生きようとするなら、霊的な敵と戦う必要があります。

C.私たちは戦っているとき、神が私たちに与えたもののために戦っていることを認識する必要があります。いったん敵が打ち破られたなら、地は私たちの嗣業のために一掃されるでしょう。

D.実は、私たちが戦う者ではありません。なぜなら、神が私たちと共に行き、私たちのために戦ってくださるからです:**1.**戦うことは私たちの責任ですが、私たちは自分だけでこの責任を果たすことはできません。私たちが戦

う自分の責任を果たすことができるのは、ただ主にある信仰によって、すなわち私たちの命また命の供給としての主ご自身によってです。**2.**私たちは、主が私たちに戦うように定めていること、主が私たちのために戦ってくださることを信じる必要があります。**申20:3-4** 彼らに言わなければならない、「聞け、イスラエルよ!あなたがたは今日、敵との戦いに臨もうとしている。心が弱ってはならない。恐れてはならない。うろたえてはならない。彼らにおびえてはならない。なぜなら、エホバ・あなたがたの神があなたがたと共に行って、あなたがたのために敵と戦い、あなたがたを救ってくださるからである」。

3.私たちは、ただ主の言葉を取り、主に服従して、結果が主にかかっていることを知るべきです。

VII.私たちはこれらすべての事柄を徹底的に学ばなら、神をさらに知り、また私たちがどのような人となるべきか、どのような存在であるべきか、どのような道を歩くべきかも知ります:

A.私たちは神の御前で、神と共に、神が何であるかにしたがって歩くべきです。

申8:6 それゆえ、エホバ・あなたの神の戒めを守って、彼の道に歩み、彼を畏れなさい。

B.私たちは神の命を持っているので、彼から学び、彼であるのと同じになるべきです。神が要求するすべての事柄を行なうために、私たちは神聖な命、すなわち神の民のために神と共に働く命を必要とします。

C.私たちは神聖な命、永遠の命によってのみ、主のすべての要求を満たすことができます。その命は、キリストの中に具体化され、命を与える霊として実際化されている三一の神です。 **✠**

**Crucial Point(1):ビジネス・パーソンにとって
主のくびきは負いやすく、主の荷は軽い**

OL1:私たちは自分自身では神のために何も行なうことはできません。私たちは別の命(神聖な命、すなわち神の命)を必要とします。

OL2:神の要求を満たすために、私たちは自分自身に全く信頼すべきではありません。そうではなく、私たちは神の願いを私たちの願いとすること、また彼を私たちの命また命の供給とすることを学ぶべきです。

私たちは神聖な命を受けましたが、この命によって生きることに慣れていません。私たちは、神聖な命によって生きるという思想を一度も持ったことがないかもしれません。そうではなく、私たちは自分の古い命に信頼し続けています。私たちは、古い命を改善するために祈りさえするかもしれません。私たちは祈りの中でこう言うでしょう、「主よ、あなたは、私がいかに弱いかを知っておられます」。主は答えられるでしょう、「あなたが私に、自分が弱いことを告げる必要はない。私は、あなたが弱いことを知っている。あなたは単に弱いだけではない。あなたは死んでいる。こういうわけで、私はあなたに別の命を与えたのだ。なぜあなたは、私にあなたに与えたこの新しい命によって生きようとししないのか?」。

神の要求を満たすために、私たちは自分自身に全く信頼すべきではありません。私たちは、主の願いを自分の願いとして、こう言うことを学ぶ必要があります。「主よ、私は、あなたが願われることを願います。あなたの願いを遂行するとき、私は自分自身に何も信頼しません。なぜなら、私はあなたのみこころを行なうことができないからです。主よ、私は自分自身に信頼しないので、またあなたの願いを果たす能力がないので、あなたを私の命また命の供給とします」。

適用: 青年在職・大学院生編

青年在職者や大学院生は仕事や研究に毎日従事しながら、召会生活を実行することは難しいと考えるかもしれませんが、聖書は次のように言っています。
マタイ11:28 **すべて労苦し重荷を負っている者は、私に來なさい。そうすれば、私はあなたがたに安息を与える。29** 私は心の柔和なへりくだった者であるから、私のくびきを負い、私から学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。**30** なぜなら、私のくびきは負いやすく、私の荷は軽いからである」。

誰でも何かに成功しようとして奮闘している者は重荷を負っています。28節で、主はそのような人は主のもとに來るように、そうすれば安息が与えられると言っておられます。ところが、私たちの観念に反して、29節と30節では、主のくびきを負うことが述べられています。それでは重荷を負っている人は、さらに主のくびきを負うことで重荷が重くなるのでしょうか？ この質問はビジネス・ライフと召会生活を同時に実行することは難しいという考えと同じで、御言葉のこの部分と矛盾しているように見えます。なぜ主は重荷を負っている者は主に來て主のくびきを負うように言われたのでしょうか？ このことを理解するためにあなたは神のエコノミーの原則を理解する必要があります。

(1)別の命、神聖な命によって生きる: 神のみこころは、あなたが別の命、神聖な命によって仕事等の責任を果たし、ビジネス・ライフにおいて神を表現することです。

(2)成功という祝福にあずかるために、神がそれを祝福する必要がある: あなたは自分がどれだけ努力しても主が祝福しなければ何も得られないことを知ってください。あなたは決して自分に頼って成功することはできません。主に頼って勤勉に労苦することを学んでください。

(3)主のくびきは負いやすく、主の荷は軽い: あなたが忙しいビジネス・ライフの中で時間を聖別して、主日集会、祈り集会、福音と牧養等のために時間を聖別することは、主に信頼し、主のくびきを負い、神のみこころを実行することです。忙しい中、主のみこころを実行することは、一見難しいようですが、実はあなたが主のみこころを実行すれば、主の同在、祝福、油塗りがあるので、主の荷は軽いのです。したがって、重荷を負っているあなたが主のくびきを負うことは、矛盾していません。

あなたはこの三つの要点をよく理解してください。神の命は要求を上回る豊かな供給です。

兄弟の証し: 私が米系の会社の新製品開発と品質保証の二つの本部とガバメント・アフェアーズを統括していた時、当初8部署のうち7部署のディレクターを兼任していました。毎日非常に忙しい日々が続いていましたが、あきらめず正常な召会生活を実行しました。私は次のように祈りました、「主よ、私がどんなに悩んでも決定するのは日本政府(あるいは米国本社)です。私がベストを尽くして行った業務を主にささげます。今晚は牧養に出て行くため帰らなければなりません。後は主に委ねますので、主が祝福してください」。このように祈った後、大変驚いたことに多くの場合、私が召会生活や安息して就寝している間に、主がアメリカ本社や日本政府に働き掛けてくださり、次の日会社に行ったときには、解決できないと考えていた問題が解決していました。ハレルヤ、主に信頼すれば、主のくびきは負いやすいです。**祈り**: 「おお主イエスよ、私は忙しいビジネス・パースンですが、私にとって主のくびきは負いやすく、主の荷は軽いのです。私はあなたを愛し、牧養と福音に出かけます。主が祝福してください」。

Crucial Point(2): 神の愛に触れ、神の愛で満たされ、神の愛をもって人々を愛し、彼らに福音を伝える

OL1: 神はまず私たちを愛してくださいました。そして彼の愛を私たちに注入し、私たちの内側に愛を生み出し、その愛をもって私たちが神を愛し、兄弟たちを愛するようになりました。

OL2: 神を愛することが意味するのは、私たちの全存在、すなわち霊、魂、体を、心、魂、思い、力(体力)と共に完全に神の上に置くということです。これは、私たちの全存在を彼に占有していただき、私たちが彼の中で失われるということです。それによって彼が私たちのすべてとなり、私たちは日常生活の中で、実際的に彼と一になります。申 10:12 **今、イスラエルよ、エホバ・あなたの神があなたに求めておられるのは、ただあなたが、エホバ・あなたの神を畏れ、彼のすべての道に歩み、彼を愛し、心を尽くし、魂を尽くしてエホバ・あなたの神に仕え、**

私たちは神を畏れるとき、彼の道を歩みます。神の道とは、実は神が何であるかです。これは、神であるものは何であれ、私たちにとって道であることを意味します。神は愛であり、この愛は、私たちが歩むべき道です。神は「**寄留者を愛して、食物と衣服を与えられる。それゆえ、寄留者を愛しなさい。あなたがたはエジプトの地で寄留者であったからである**」(18節 b-19節)。神の道の一つは寄留者を愛することであり、私たちは神のこの道を歩むべきです。多くの寄留者は貧しく、食物と衣服に欠けています。私たちは彼らを愛し、彼らが必要とするものを与える必要があります。神はまた聖であり、彼の聖は私たちの歩みのもう一つの道です。さらに、神は「**人を偏り見ることなく、賄賂を取ることも**」(17節 b)ありません。私たちはこれを道として、人を偏り見ることなく、賄賂を取るべきでもありません。神はまた「**みなしごとやもめのために正しい裁きを行ない**」(18節 a)ます。私たちは彼の公正の道に歩むべきです。

12節でモーセは、心を尽くし、魂を尽くして神を愛し、彼に仕えることについて語っています。私たちの心は私たちの霊に結び付けられています。なぜなら、私たちの良心は、私たちの霊のものであり、私たちの心の一部分でもあるからです。ですから、心と魂を尽くして神を愛し、神に仕えることは、私たちがまた霊をもって彼を愛し、彼に仕えることでもあるのです。さらに、6:5によれば、私たちはまた力(体力)を尽くして神を愛すべきです。今日、私たちは新しい道を実行することによって神に仕えようとするなら、私たちの霊をもって、心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして仕える必要があります。人々を訪問し、彼らが救われ、バプテスマされるようにし、その後、彼らを顧みるために、私たちの心、魂、力のすべてを必要とします。

適用: 奉仕者編

まず神が私たちに愛を注いでくださいました。私たちはそれを受けて、神に愛情を注いで神を愛し返すべきです。神の愛を受けた私たちは、神の愛をもって人々のところへ出て行く必要があります。神は世人を愛しておられ、彼らがひとりも滅びないで永遠の命を受けることを願っておられます。あなたは神の愛に押し迫られ、満たされて、人々を愛し福音に出て行ってください。日本では4月は大学の入学時期なので、福音を伝えて学生を得る最も良い時期です。この時期は通常の福音と牧養の枠組みを強化し、それ以外にも追加して出て行くべきです。

福音の霊を燃やすために、神の愛に触れる必要があります。神の愛に触れるために、あなたは自分がどのようにして救われたのか、また救われた後、どのよう

に愛と義の中であなたを導かれたのかを思い出し、祈りの霊の中で思いめぐらす必要があります。

姉妹の証し: 私は母子家庭で育ちました。救われる1年半前、母親をがんで亡くしました。その後、大学生だった私は1年半自宅引きこもりの生活をしていました。そんな時、駅前で福音を聞き、集会所に来てその日バプテスマされ、救われました。最初は何もわかりませんでした。世の中に頼りが全くないので、キリストと召会にしがみつきました。7年前に救われ、今年1月から召会の中で全時間奉仕を始め、三宮集会所に引っ越し、2月24日に結婚しました。主の導きと祝福に感謝します。以前は福音が苦手でした。しかし私が救われたことを思い出さず時はいつでも、神の愛を感じます。神の愛に満たされて、今は福音に出て行く負担があり、毎週実行しています。4月の福音強化月間に多くの若者が救われますように。主が祝福してください!

関西地方では4月をキャンパス福音のためのゴールデン機会ととらえ、3/21に神戸魚崎で福音開展キックオフミーティングを行います。この時関東地方からも数名の奉仕者が参加していただきます。3/23~4/12の3週間は福音強化週間で、4/13~26の2週間は牧養強化週間です。4/29(昭和の日)には六甲山リジョイス・ガーデンでのブレンディングを計画しています。

祈り:「おお主イエスよ、コロナウイルスが拡散しつつある時、全日本各地、関東、関西、神戸、徳島、広島、名古屋の兄弟姉妹が神を愛し、神を畏れて、福音の霊に燃え、白い馬を加速させることができますように! コロナウイルスの青白い馬は、私たち召会の福音の白い馬をより早く走らせるためです。コロナウイルス拡散のニュースを聞くたびに、一面で感染しないように注意し、もう一面、福音の霊をますます燃やさなければなりません。アーメン」。

Crucial Point(3):神を愛し、神を畏れて祝福されるために、霊的パートナーが必要である

OL1: 私たちはみな神を畏れるべきです。私たちは神に対する適切な畏れを持たなければなりません。これは聖なる畏れ、すなわち健康で、厳粛な警告であって、私たちが聖なる振る舞いをするように導きます。

OL2: 私たちは神を畏れ、神へと分離され、聖別されて、聖なる民となるべきです。

OL3: 神を畏れるとは、神の権威に服従することです。

OL4: 神は反逆的な者に対して厳格であるので、私たちは神を畏れる必要があります。

OL5: 神を畏れることに欠けるのは恐ろしいことです。それはあらゆる種類の不法の源です。

ガラテヤ6:7 欺かれてはなりません。神は侮られるような方ではありません。なぜなら、人がまくものは何であれ、それをまた刈り取るからです。

私たちは生ける神を畏れることを学ばなければなりません。私たちはいい加減であってははいけません。神は侮られるような方ではありません。…神はしばしば異邦人を放っておきますが、神の子供たちに対しては決していい加減ではありません。…神が私たちを取り扱うのは、私たちが彼の聖にあずかるためです。聖書は言っています、「主は愛する者を取り扱い、受け入れるすべての子をむち打たれるからである」(ヘブル12:6)。そして聖書は、裁きは神の家から始まると言っています。このゆえに、私たちは神を畏れなければなりません。使徒パウロは、「生ける神の御手に陥るのは、恐ろしいことです」(ヘブル10:31)と言い、また「私たちの神は、焼き尽くす火でもある」(12:29)と言っています。

私たちは生ける神に属しています。私たちがいい加減であっても彼は見ていないとか、私たちが言っていることを彼は聞いていないと思っははいけません。生ける神の御手に陥るのは恐ろしいことです。私たちは彼を畏れることを学ばなければなりません。

彼は私たちの意図、思考、感情、そして私たちのすべてを探られます。彼から隠れていることができるものは何もありません。私たちは彼を畏れ、彼が裁く神であることと、裁きが彼の家から始まることを認識しなければなりません。私たちは自分の意図、思考、態度、生活、奉仕において神を畏れなければなりません。

適用:新人及び青少年・大学生編

モーセはイスラエルの民に、神を愛し、神を畏れて、神の道を歩むように命じました。神に対する敬虔な畏れがないことは、あらゆる不法の源です。

ローマ1:18 さて、神の激怒は、不義をもって真理を抑え込む人たちのすべての不敬虔と不義の上に、天から啓示されています。…**20** 神の見えない永遠の力と神性の特徴は、世界が創造されて以来、明らかに見られており、造られた物によって認められているので、彼らには弁解の余地がありません。

人が神を畏れず、「神を知っていながら、神として彼に栄光を得させず、感謝も(1:21)」しないと、あらゆる種類の墮落が入ってきます。例えば、激情による姦淫と同性愛、邪悪、むさぼり、悪意、妬み、敵意、争い、欺き、憎悪、悪事をたくらむ事、親に逆らうこと等です。あなたは神を畏れ、これらの墮落したもので満たされないように注意する必要があります。神を畏れない事から来るこれらのすべての墮落は、心理上の感染性があるので、交友関係に注意をすべきです。

墮落に対抗するため、ダニエルと3人の友人のような複数の霊的なパートナーが必要です。あなたは若い時から自分を顧みてくれる少し年上の、主を愛する兄弟姉妹と、同年代の兄弟姉妹のパートナーを持ち、彼らと腹を割って本音で話し合い、祈り合うことを学んでください。これらのパートナーを持つことで、あなたは実際的なからだの生活を実行し、守られ、知恵を得て、祝福されます。

ダニエル1:17 神はこの四人の若者に、知識とあらゆる学問を理解する力と知恵を与えられた。そしてダニエルは、すべてのビジョンと夢を理解した。…**20** 王が彼らに尋ねる知恵と理解のあらゆる事で、彼らは国中のどの魔術師、呪文師よりも十倍もまさっていることがわかった。

ダニエルと3人の友人は、祈りと交わりのバイタル・グループでした。このバイタル・グループの中で神は彼らを祝福したのです。あなたは共に主の御名を呼び求め、心を開き、霊を開いて、本音で交わり合い、高め合うことのできるパートナーがいるでしょうか? 子供の時は両親があなたのパートナーです。中高大学生になると、両親以外に良く交わることのできるパートナーを持つことが必要です。

祈り:「おお主イエスよ、若い時からパートナーと共に神を畏れることを学びます。共に本音で交わり合い、祈り合い、高め合うことのできるダニエルの3人の友人のようなパートナーが与えられますように。神を畏れないことから来る激しい情欲から救ってください。また学校では、識別力のないクラスメートから私を守ってください。霊的パートナーと共に主の中で力強く前進し、学校で主の証しを立てることができますように。アーメン!」